

ラット/マウス OCTアッセイキット

【一般的な注意】

- 1) 本製品は研究用試薬であり、それ以外の目的に使用しないで下さい。
- 2) 添付文書に記載された使用方法に従って使用して下さい。記載された使用方法及び使用目的以外での使用は避けて下さい。

【形状・構造等(キットの構成)】

① 抗体固相プレート	1 枚	
② OCT 標準液 1 (0ng/mL)	1 バイアル	(0.05mL)
③ OCT 標準液 2 (30ng/mL)	1 バイアル	(0.05mL)
④ OCT 標準液 3 (100ng/mL)	1 バイアル	(0.05mL)
⑤ OCT 標準液 4 (300ng/mL)	1 バイアル	(0.05mL)
⑥ 希釈液	1 バイアル	(50mL)
⑦ 洗浄原液 (10 倍濃縮液)	1 バイアル	(50mL)
⑧ 酵素標識抗体	1 バイアル	(0.15mL)
⑨ 発色液 A	1 バイアル	(6mL)
⑩ 発色液 B	1 バイアル	(6mL)
⑪ 反応停止液	1 バイアル	(11mL)

【使用目的】

ラットおよびマウス オルニチンカルバミルトランスフェラーゼ (OCT) の測定

【測定原理】

本キットは、マイクロプレート固相法を用いた酵素免疫測定法(EIA)より、ラットおよびマウス検体中の OCT を測定するキットです。マイクロプレートに固相した抗体、検体中の OCT ならびに、標識抗体を反応させることにより形成された、固相抗体-OCT-標識抗体複合体から、酵素-基質反応(発色反応)により、ラットおよびマウス検体中の OCT 量を定量することができます。

【操作上の注意】

- 1) 検体はラットまたはマウスの血清を使用して下さい。他動物種の OCT は測定できません。
- 2) すぐに測定しない場合、検体は-20℃以下で保存して下さい。
- 3) 測定は、検体を室温に戻してから実施して下さい。
- 4) 凍結融解を繰り返した検体は使用しないで下さい。
- 5) 溶血した検体は使用しないで下さい。

【使用方法】

1. 試薬の調製

試薬は室温に戻してから使用して下さい。

- 1) 酵素標識抗体
100 μ L の酵素標識抗体に希釈液を 10mL 混合し、調製済み酵素標識抗体として使用します。調製済み酵素標識抗体は-20℃以下で保存し、28 日以内に使用して下さい。
- 2) 発色液
使用時に、発色液 A および発色液 B を 1:1 の割合で混合し、調製済み発色液として使用します。
- 3) 洗浄原液
精製水で 10 倍希釈し、調製済み洗浄液として使用します。
調製済み洗浄液は 2~8℃で保存し、28 日以内に使用して下さい。
- 4) 標準液
使用時に、OCT 標準液 1~4 と希釈液を 1:10 の割合で混合し、調製済み OCT 標準液として使用します。
- 5) その他の試薬
そのまま使用します。

2. 必要な器具、装置

マイクロピペットまたはマルチチャンネルピペット(10、100、300 μ L)、ボルトックスミキサー、メスシリンダーまたはメスピペット、プラスチック製試験管(ガラス製の試験管は使用しない)、インキュベーター、マイクロプレートリーダー、アスピレーターまたはプレートウォッシャー、紙タオルなど

3. 検体の調製

- 1) 検体は血清を使用します。
- 2) 希釈液を用い、ラットおよびマウス血清を 11 倍希釈したものを使用するのが好ましい。
- 3) 測定範囲を超えた検体は、希釈液で適宜希釈して測定します。

4. 操作方法

- 1) 調製済み OCT 標準液または調製済み検体 100 μ L を抗体固相プレートの所定のウェルに分注します。
- 2) 20~30℃で 1 時間静置します。
- 3) ウェルの内容物をアスピレーター等で吸引除去後、調製済み洗浄液 300 μ L を抗体固相プレートの所定のウェルに分注します。
この操作をさらに 2 回行います。
- 4) 抗体固相プレートを紙タオル上で逆さにして軽くたたき、残った液を除きます(プレートは乾燥させないように注意して下さい)。
- 5) 調製済み酵素標識抗体 100 μ L を抗体固相プレートの所定のウェルに分注します。
- 6) 20~30℃で 1 時間静置します。
- 7) 3)~4)と同様の操作を行います。
- 8) 調製済み発色液 100 μ L を抗体固相プレートの所定のウェルに分注します。
- 9) 20~30℃で 30 分間静置します。
- 10) 反応停止液 100 μ L を抗体固相プレートの所定のウェルに分注します。
- 11) 全てのウェルの 450nm の吸光度を測定します。

5. 濃度の算出

- 1) グラフ用紙を用意し、横軸に各標準液の濃度を、縦軸には各標準液の吸光度の平均値をプロットし、標準曲線を作成します。
- 2) 各検体の吸光度の平均値を用いて、標準曲線から検体の OCT 濃度を求めます。求めた濃度と希釈倍率から検体中の OCT 濃度を算出します。

【使用上または取扱上の注意】

1. 取扱上の注意

- 1) 検体は、感染性のものを含んでいる場合がありますので、感染の危険があるものとして取扱には十分注意して下さい。
- 2) 本キットの反応停止液には硫酸が含まれているため、皮膚との接触を避ける等取扱いに注意して下さい。
- 3) 試薬が誤って目や口に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水で十分洗い流す等の応急処置を行い、必要があれば医師の手当て等を受けて下さい。

2. 使用上の注意

- 1) 調製した試薬は、定められた方法で保存し、定められた期間内に使用して下さい。
- 2) 異なるロットの構成試薬を組み合わせ使用しないで下さい。
- 3) 使用期限を過ぎたキットは、使用しないで下さい。
- 4) 試薬の注ぎ足しは行わないで下さい。

3. 廃棄上の注意

- 1) 使用後の容器は、廃棄物に関する規定に従って、医療用廃棄物または産業廃棄物等区別して処理して下さい。
- 2) 検体に接触した器具、試薬及び試薬容器等は、感染の危険性があるものとして、オートクレーブ等で滅菌処理するか、または 1%次亜塩素酸等の消毒薬に浸して処理して下さい。

【貯蔵方法・有効期間】

1. 貯蔵方法: 2~8℃
2. 有効期間: 製造日から 6 ヶ月 (使用期限は外箱に表示)

【包装単位】

1 キット (96 テスト用)
製品コード: 80127


【主要文献】

- 1) Murayama H. et al. Clin Chim Acta. 125: 368, 2006

【問い合わせ先】

ヤマサ醤油株式会社 診断薬部
〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町 1-23-8
TEL 03-3668-8558 FAX 03-3668-8407

【製造販売業者の氏名又は名称及び住所】

 ヤマサ醤油株式会社
千葉県銚子市新生町2-10-1
TEL 0479-22-0095